

金比羅往来マップ



江戸時代の旅

娯楽の少ない江戸時代は、旅が最大のレジャーでした。そして旅をより快適なものとするため、名所・旧跡・名物などを紹介した名所絵図、また各宿場の旅籠名が掲載された講宿帳などが発行され、旅人への便宜が図られました。

なお、宿泊を伴う旅は、必ず村役人に届け出るようになっており、これが認められると道中の身分証明書である「往来手形」が発行されました。手形には、住所、名前、年齢、目的、行き先、宗旨、また病死した場合の埋葬の依頼などが記載され、当時の旅は死をも想定した厳しいものであったことがうかがえます。

当時、旅の途中で病気になった人には医師による治療を受けさせ、村から村へと継ぎ送り、居住地へ返す村次制度が確立していました。

早島は、金比羅往来を往き来する旅人も多く、道中で病気になる人や亡くなる人も多かったようです。



「講宿帳」